

【教育方針】

全人教育・文武両道
教育の根底となる哲学「どう生きていけば幸せになれるのか」の追求

- 1 学 習
 - ・学習に打ち込むことを通して生きる力を養い、知的で豊かな人間性を育む。
- 2 課 外 活 動
 - ・学校行事を通して絆を深め、人間関係の大切さを学ぶ。
 - ・部活動を通してくじけない心を育て、たくましい精神力を養う。
- 3 社 会 性
 - ・社会生活におけるルールや礼儀を体得し、人間としての品格を備える。
 - ・地球環境について正しい認識を持ち、環境保全活動を実践する。

【目指す学校像】

魅力と活力に満ち、地域に根づく信頼される学校

【目指す生徒像】

学習指導、進路指導の充実により生徒の「学びの構え」と、生活指導、部活動指導等の充実より「生きる構え」を育み、心身ともに逞しく「生き抜く力」を身に付けた品格ある生徒を育成する。

【学校生活のモットー】

「元気に！ 明るく！ さわやかに！」

【今年度の重点目標】

- 1 基本的な生活習慣、望ましい学習習慣を確立させて学力の向上を図り、規律と責任を尊び、心豊かで充実した学校生活を送ることができるように努める。
- 2 教育活動を通して強靱な体力や精神力、正しい判断力や豊かな情操を培い、心身ともに逞しく生き抜く力を育む。
- 3 教員の授業力を高め、生徒の学習意欲の向上に努める。
- 4 3年間を見据えたきめ細かい指導を行い、生徒の進路志望の実現を目指す。
- 5 生徒・教職員が安心して教育活動が実践できる安全で快適な教育環境の保全に努める。
- 6 生徒・教職員の激甚災害への防災意識を高め、不測の事態に安全に行動できる知識や能力を育成する。
- 7 いじめ防止基本方針に基づき適確な指導を行い、いじめに向かわせない学校風土を醸成する。

※達成度は4段階評価
4:大変よくできた。
3:まあまあできた。
2:あまりできなかった。
1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・英語、国語の継続的な小テストの実施 ・普通科実力テスト、普通科補習の充実 ・校内外の試験の活用による実力の把握と目標の設定	3学年とも毎日の家庭学習を習慣化することができ、漢字検定や英語検定にも積極的に挑戦させることができた。3年生は推薦入試の比率が高かったものの、全体的に納得のいく進路を選択させることができた。	3	進路決定を推薦入試ありきで考えせず、一般入試で合格できるだけの学力を付けさせる。
	視野の拡大と可能性の追求	・大学見学バスツアーや大学展の活用	1、2年生のうちから各種進路行事に積極的に参加させ、幅広く進路目標を持たせる指導の結果、意欲を持って学習に励む生徒が増加した。	3	校内外の各種進路行事に積極的に参加させ、選択肢を増やし、高い目標を持たせて学習に取組ませる体制を作る。
情報会計科	積極的な資格取得	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実	3年生に関しては全員が2級以上合格という結果を残した。1、2年生についても検定合格率は高い。生徒アンケートにおいて、ほとんどの生徒が、資格取得に取組む姿勢を培うことができたことと回答した。	3	さらなる上級資格の合格を目指し、補習の質・量ともに充実させる。
	即戦力となる人材の育成	・始業前着席、授業準備の徹底	生徒アンケートでほとんどの生徒が「できている」「おおむねできている」と回答しており、日々の反復学習指導、挨拶指導、マナー指導、面接指導等を通して、社会人としての基本的資質を身につけることができた。	3	きめの細かい反復指導、挨拶指導を徹底する。
家政科	基礎学力の定着	・学習コンクールに対する学科テストの実施	積極的に取組んでいると回答している割には不合格者が多かった。合格できる実力が付取組をしていくことが今後の課題である。	3	全回において学科平均点60点を達成させる。
	家庭科検定資格取得の強化	・検定補習の実施	上位級取得に向け取組んでいる生徒もいたが、被服検定、食物調理検定3級不合格者が若干名おり、全員3級取得させることが今後の課題である。	3	3年生課題研究に総合コースを新設し、基本的な指導を図る。
	附属幼稚園・大学との連携強化	・幼稚園実習の充実 ・進路を含めた大学との連携	幼稚園実習は計画的に実施できたが、大学との連携が十分できなかった。今後、大学との連携を図り、幼稚園実習を見直すことが課題である。	3	進路課と相談し、大学との連携を図る。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・調理師としての自覚の涵養	学校生活の問題点を早期発見し対応できたので、落ち着いた学校生活を送らせることができた。そのため、衛生管理への意識も高まり、円滑で安全な調理実習を実践できた。	3	春季技術審査全員合格に向けて授業の拡充を図る。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	「信長の台所 津島まちあそび・第9回一宮モーニング博覧会・138ひつじプロジェクト」に参画し、食文化という側面から、地元活性化の一端を担うことができた。また、生徒のアイデアから生まれた「万能やみつき味噌ダレ」が商品化され、好評を得た。	4	平成26年度に地元企業と共同で開発したベジタブルあられのシリーズ化の拡充を図る。
総務課	図書館の利用促進	・蔵書管理システムの活用	蔵書管理システム導入6年目を迎え、閲覧室にある本の処理はほとんど終えることができた。今後は館内のレイアウトを考え、書庫にある本の処理について検討する必要がある。	3	効率的なネットワーク環境を構築する。
		・図書に関する積極的な広報活動	図書委員会による企画展「ナニ？なに？セントレア」を実施し、好評であったため、来館者が大幅に増加した。	4	図書委員会による企画を積極的にを行い、図書館への来館者数増加を目指す。
	防災に対する取組みの推進	・防災教育の推進	「東日本大震災津波等語り部による講話」を実施し、東日本大震災で被災された方の生の声を聞くことができ、記憶の風化を防止するとともに、防災意識の向上を図ることができた。	3	「あいちシェイクアウト訓練」と協賛して、避難訓練を企画し、実施する。
		・防災マニュアルの整備	「防災マニュアル」運用2年目を迎えたが、その内容について全校生徒及び教職員に周知する機会がもてなかった。	2	防災マニュアルの内容を理解するための機会を設定する。
教務課	学力の向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	年間を通して、学習コンクールの平均は65.9点であり昨年より約6点上昇した。ただ、基礎力診断テストにおいては依然としてD3(基礎学力不足)の生徒が約3割程存在しており、外部試験への対応力が今後の課題である。	3	学習コンクールにおいては出題形式を変更し、基礎力診断テストにおいては事前対策を強化していく。
		・授業規律の確立と授業力の向上	年間を通して、朝の反復学習の様子や始業終業の挨拶はしっかりできた。また、授業観察や研究授業を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	3	昼の反復学習や各授業の開始時のけじめをしっかりとつけさせる。また、ICTを活用するなど授業改革にも取組んでいく。

項目	重点目標	具体的方策	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
生徒課	品位ある生徒の育成	・正しい身だしなみの確立	保護者アンケートにおいて、93%の保護者から「品位ある生徒の育成に取り組んでいる」との回答を得られたことは、教員による日常の声かけ指導の成果である。	4	日頃の声掛け指導を継続していく。
		・交通マナーの遵守	ゆとり登校を呼びかけた結果、交通事故が昨年度より減少した。しかし、入院するといった大きな事故があったため、安全確認運転の指導を充実する必要がある。	3	ゆとりある登校を呼びかけ、万一の事故に備えて対応の仕方を継続指導していく。
	生徒会活動の活性化	・委員会活動の活性化	文化祭や3年生を送る会では、生徒と教員が計画的に準備を進めたため、生徒から満足したという回答を得た。	3	委員会の指導を充実させ、活性化を図り、活気ある学校生活を送れるようにする。
		・部活動の活性化	顧問の積極的な働きかけにより、出席率の50%以下の部員はほとんどいなかった。また、全国大会出場を果たした部活動もあった。	3	学校と家庭がきめ細かく連携を取り、3年間継続して部活動に取り組めるようにする。
	健康管理の充実	・心身の健康に関する意識の啓発	・保護者アンケートの結果、けがや病気の情報発信の満足度に学科によるばらつきが見られたため、さらなる保健情報提供の工夫が必要である。 ・教育相談室の環境整備は充実してきたので、利用促進につなげる工夫が必要である。	3	保健情報の提供のさらなる工夫を迫及する。 教育相談の環境保全と利用促進を充実させる。
進路課	納得できる進路選択	・進路シラバスの活用	進路シラバスの活用を教員・生徒ともに呼びかけたが、年間行事予定との差異が理解されず、期待する利用状況には至らなかった。	2	進路シラバスのブラッシュアップを図る。また、学校全体で利用する機会を増やす。
		・多様な入試制度の活用	単なる早期決定を目的としたAO入試利用者は皆無であった。今年度は熟慮の上、推薦入試を利用した生徒が増加した。	3	様々な入試制度を提示することで、受験プランを立てる際の参考にさせ、より良い進路実現へと導く。
		・就職試験対策の強化	就職内定率は年内に100%であった。面接対策は、生徒の面接ノート作りへの取組がよく、各学科教員の協力も得て、一定の成果をあげることができた。筆記試験に向けては、基礎力診断テストや学習コンクールへの取組が有効であることが浸透した。	4	面接が苦手な生徒の指導を充実させる。
広報課	情報発信の充実	・ホームページのフルリニューアル ・ホームページの更新率100%を継続	今年度、あらゆる端末から閲覧しても支障がないよう、ホームページのフルリニューアルを実施した。閲覧状況に関しては、保護者アンケートの結果、良い評価を得ることができた。日々の更新とSNSとの連動の追加で、幅広い個所からの情報提供が可能となり、前年度よりもアクセス数増につなげることができた。	4	ホームページを使用した緊急連絡やオープンスクールの申し込み受付等、情報発信を強化する。